

(様式第 9)

佐大医経第 385号
平成23年10月2日

九州厚生局長 殿

国立大学法人佐賀大学
学長 佛淵 孝夫

特定機能病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 23 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	72.08人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照 (様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照 (様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	283人	69人	338.2人	看護補助者	41人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	13人	4人	16.2人	理学療法士	10人	臨床検査技師	25人
薬剤師	29人	0人	29人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	2人	その他	0人
助産師	15人	1人	15.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	535人	19人	547.4人	臨床工学技士	7人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	0人	その他の技術員	17人
歯科衛生士	0人	1人	0.3人	歯科技工士	1人	事務職員	107人
管理栄養士	5人	0人	5人	診療放射線技師	24人	その他の職員	22人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	499.9人	12.3人	512.2人
1日当たり平均外来患者数	813.2人	58.4人	871.6人
1日当たり平均調剤数	718.9 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
該当なし	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
該当なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	54人	・膿疱性乾癬	5人
・多発性硬化症	47人	・広範脊柱管狭窄症	1人
・重症筋無力症	72人	・原発性胆汁性肝硬変	18人
・全身性エリテマトーデス	207人	・重症急性膵炎	8人
・スモン	3人	・特発性大腿骨頭壊死症	76人
・再生不良性貧血	22人	・混合性結合組織病	27人
・サルコイドーシス	53人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	14人	・特発性間質性肺炎	15人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	147人	・網膜色素変性症	7人
・特発性血小板減少性紫斑病	57人	・プリオン病	2人
・結節性動脈周囲炎	21人	・肺動脈性肺高血圧症	3人
・潰瘍性大腸炎	123人	・神経線維腫症	7人
・大動脈炎症候群	17人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	8人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	12人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3人
・脊髄小脳変性症	43人	・ライソゾーム病	2人
・クローン病	31人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	6人	・脊髄性筋萎縮症	6人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	85人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	9人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	17人
・後縦靭帯骨化症	9人	・肥大型心筋症	2人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	127人	・ミトコンドリア病	3人
・ウェゲナー肉芽腫症	6人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	45人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	9人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	27人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

計 1,460 人

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補委	
低真空走査電子顕微鏡の病理学的診断への応用	宮崎 博喜	腎臓内科	1,250,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
c-myc標的分子Mina53の肺癌抑制機構の解明と分子標的治療への応用	小宮 一利	呼吸器内科	2,080,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
抗うつ薬とBDNFによるミクログリア活性化の制御機構解明・TRPチャネルの関与	溝口 義人	精神神経科	2,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
悪性脳腫瘍におけるメチル化遺伝子とヒストンのメチル化による癌化機構の解明	中原 由紀子	脳神経外科	2,850,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
骨髄脂肪組織-骨芽細胞相互作用と脂肪組織由来間葉系幹細胞の増殖・分化機構の解明	内橋 和芳	病理部	1,881,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
緑内障濾過手術への糖鎖研究の応用	岩尾 圭一郎	眼科	1,450,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
立体的心筋細胞構造体による心機能の再生	森田 茂樹	心臓血管外科	10,940,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
子宮頸癌発癌過程とエピジェネティクスの変化:癌化予測および治療への応用	岩坂 剛	産科婦人科	600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
摂食行動に関連する中枢神経系の小腸粘膜のアポトーシス・増殖に及ぼす影響	藤本 一眞	消化器内科	900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
大腸癌発生に対する各種脂質の影響及びその修飾因子に関する検討	岩切 龍一	光学医療診療部	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌による院内肺炎の診断と抗菌薬治療開始閾値に関する研究	青木 洋介	感染制御部	400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
感染による乳児喘息発症のメカニズム:病原微生物に対する免疫反応不良との関連	在津 正文	小児科	700,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
喉頭癌由来癌幹細胞の生存・増殖・分化・遊走における間質細胞の役割とその制御機構	戸田 修二	病理部	800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
網膜血管リモデリングにおける酵素学的硝子体融解法の効果に関する研究	平田 憲	眼科	900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
白血病の生存に対する骨関連細胞の関与	木村 晋也	血液・腫瘍内科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
DNA依存性キナーゼを標的とした癌治療の構築と効果予測因子の探索	荒金 尚子	呼吸器内科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
肝細胞癌由来癌幹細胞の生存・増殖・分化・遊走における脂肪組織の役割とその制御機構	松延 亜紀	病理部	2,081,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
非アルコール性脂肪性肝疾患の病態進展に及ぼす骨格筋組織連関の解析	江口 有一郎	総合診療部	350,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ループス腎炎の病態発現におけるインターフェロン制御因子5の作用の解析	多田 芳史	膠原病・リウマチ内科	1,580,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
自己抗体産生細胞を標的とした全身性エリテマトーデスの新規治療法の開発	小荒田 秀一	膠原病・リウマチ内科	2,400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
単球・血管内皮・脂肪細胞による3次元培養モデルを用いた川崎病血管炎の病態の解析	田代 克弥	小児科	1,660,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
高齢者の認知機能を低下させる要因の解析	山田 茂人	精神神経科	1,750,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
前立腺癌細胞の生存・増殖・浸潤における放射線被曝間質細胞の役割とその制御機構	魚住 二郎	泌尿器科	2,081,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
唇顎口蓋裂患者における間葉系幹細胞を用いた再生治療の確立	山下 佳雄	歯科口腔外科	2,712,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
MRI-ASL法を応用した血管内信号強調灌流画像における実用的有用性の評価	西原 正志	放射線科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

小計
46,465,000

胆嚢癌における浸潤様式・脱分化のメカニズムと予後との関係	甲斐 敬太	病理部	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
網膜色素上皮からの神経網膜細胞の再生	岩切 亮	眼科	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
薬剤溶出性ステント後の再内皮化誘導療法に関する研究	野出 孝一	循環器内科	500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
TLR4シグナルを利用した気管支喘息発症の予防的治療戦略の構築	太田 昭一郎	検査部	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ω 3脂肪酸代謝物の小児喘息に対する能動的消炎機構の解明	濱崎 雄平	小児科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
扁平上皮癌の癌幹細胞の生存・増殖・分化における放射線被曝間質細胞の役割と制御機構	蒲地 紀之	放射線部	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
変形性関節症患者の手術前後のQOLとアクティビティに関する研究	馬渡 正明	整形外科	500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
siRNAによるCaspase抑制を用いた新たな緑内障治療薬の開発	沖波 聡	眼科	900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
認知症の実態把握に向けた総合的研究	山田 茂人	精神神経科	10,000,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
アトピー性皮膚炎のかゆみの解明と治療の標準化に関する研究	浜崎 雄平	小児科	1,650,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
重度別治療指針作成に資すHAMの新規バイオマーカー同定と病因細胞を標的とする新規治療法の開発	原 英夫	神経内科	1,000,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究	長澤 浩平	膠原病・リウマチ内科	1,500,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
慢性特発性偽性腸閉塞症の我が国における疫学・診断・治療の実態調査研究	藤本 一眞	消化器内科	1,000,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
スモンに関する調査研究	雪竹 基弘	神経内科	700,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
日本人糖尿病合併冠動脈疾患患者において積極的脂質低下・降圧療法の妥当性を問うランダム化臨床試験および観察研究	野出 孝一	循環器内科	3,000,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究	馬渡 正明	整形外科	1,200,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)

小計
27,850,000
合計
74,315,000

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Arthritis Rheum 63: 738-748	Interferon regulatory factor 5 is critical for the development of lupus in MRL/lpr mice.	多田 芳史	膠原病・リウマチ内科
Rheumatology 49: 662-670	Autoantibody-producing RP105-negative B cells from patients with systemic lupus erythematosus, showed more preferential expression of BCMA compared with BAFF-R than normal subjects.	小荒田 秀一	膠原病・リウマチ内科
感染症学雑誌 84: 300-304	サルコイドーシスとの関連が示唆された Mycobacterium nonchromogenicum皮膚感染症の1例	戸田 知子	膠原病・リウマチ内科
九州リウマチ 30: 88-93	膠原病患者のレイノー症状と血小板由来マイクロパーティクルに対する5-HT _{2A} 受容体拮抗剤塩酸サルボグレラートの効果	多田 芳史	膠原病・リウマチ内科
Hypertens Res. 2010, 33: 1232-1237	Marked cerebral atrophy is correlated with kidney dysfunction in nondisabled adults.	薬師寺 祐介	神経内科
J Ultrasound Med. 2010, 29: 1507-1510	Ultrasonographic confirmation of the association between calcified cerebral emboli and mitral annular calcification.	薬師寺 祐介	神経内科
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2010 Jul 10. [Epub ahead of print]	Clinical Characteristics by Topographical Distribution of Brain Microbleeds, With a Particular Emphasis on Diffuse Microbleeds.	薬師寺 祐介	神経内科
Neurol Res. 2010 Aug 16. [Epub ahead of print]	Leptomeningeal collateral and cerebral hemodynamics in patients with ICA and MCA steno-occlusion.	薬師寺 祐介	神経内科
脳と循環. 2010; 15巻; 63-66	著しい僧帽弁輪石灰化に付着した可動性構造物由来の再発性Calcified cerebral emboliの一例	薬師寺 祐介	神経内科
臨床神経学. 2010; 50巻; 246-251	印環細胞癌 に合併した全身性筋炎および感覚性ニューロパチーの1例	薬師寺 祐介	神経内科
J. Alz. disea. 20: 427-439	The therapeutic effects of the herbal medicine, Juzen-taiho-to, on A β burden in a mouse model of Alzheimer's disease.	原 英夫	神経内科
J. Neurol. Sci 290; 80-85	a Pix enhances mutant huntingtin aggregation.	原 英夫	神経内科
Internal Medicine 49:2283-2288	Low serum albumin level is risk factor for patients with Percutaneous endoscopic gastrostomy.	原 英夫	神経内科
J Clin Biochem Nutr. 47 (2) :138-47.	Loxoprofen Sodium, a Non-Selective NSAID, Reduces Atherosclerosis in Mice by Reducing Inflammation.	濱口 真美	血液・腫瘍内科

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Int J Hemmatol, 91(4) :699-704	Uncommon case of chronic myeloid leukemia with multiple myeloma.	出 勝	血液・腫瘍内科
Tissue Eng Part C Methods :16(1) :81-91.	Isolation of mesenchymal stem cells from bone marrow in the closed system using a new device made by non-woven fabrics.	Ito Kinya	血液・腫瘍内科
Cancer 1;116(11) :2665-72	Phase I study of INNO-406, a dual Abl/Lyn kinase inhibitor, in Philadelphia chromosome-positive leukemias post-imatinib resistance or intolerance.	Kantarjian H	血液・腫瘍内科
Cancer Lett, 28:294(2) :245-53.	A combination of a DNA-chimera 1 siRNA against PLK-1 and zoledronic acid suppresses the growth of malignant mesothelioma cells <i>in vitro</i> .	河田 英里	血液・腫瘍内科
Oncol Rep, 24(1) :233-9.	Zoledronic acid inhibits proliferation of human fibrosarcoma cells with induction of apoptosis, and shows combined effects with other anticancer agents.	小藤 和孝	血液・腫瘍内科
Mol Cancer Res, 8(7) :994-1001	Targeting ATF-3 by Galectin-9 induces apoptosis and overcomes various types of treatment resistance in chronic myelogenous leukemia.	黒田 純也	血液・腫瘍内科
日本輸血細胞治療学会誌 56(1) 68-71	造血幹細胞移植における血縁ドナーのための専門外来	村松 裕子	血液・腫瘍内科
Biochem Biophys Res Commun. 22:391(4) :1610-5.	Blockade of the ERK or PI3K-Akt signaling pathway enhances the cytotoxicity of histone deacetylase inhibitors in tumor cells resistant to gefitinib or imatinib.	尾崎 恵一	血液・腫瘍内科
Anticancer Res 30(7) :2713-20	Combined effects of bisphosphonate and radiation on osteosarcoma cells.	劉 和輝	血液・腫瘍内科
Cell Death Diff. 17(7) :1211-20.	Glyoxalase-I is a novel target against Bcr-Abl ⁺ leukemic cells acquiring stem-like characteristics in hypoxic environment.	武内 美紀	血液・腫瘍内科
Int J Hematol, 91(1) :132-5.	Gangrenous cheilitis associated with all-trans retinoic acid therapy for acute promyelocytic leukemia.	田中 麻里子	血液・腫瘍内科
Open J Hematol. :1-5	Primary hepatic extranodal marginal zone lymphoma of mucosa-associated lymphoid tissue type is associated with chronic inflammatory process.	田中 麻里子	血液・腫瘍内科
Blood, 116: 2089-2095	Activity of the multi-targeted kinase inhibitor, AT9283, in imatinib-resistant BCR-ABL positive leukemic cells.	田中 瑠璃子	血液・腫瘍内科
Oncol Res, in press.	A Fully Integrated and Automated Detection System for Single Nucleotide Polymorphisms of <i>UGT1A1</i> and <i>CYP2C19</i> .	嬉野 紀夫	血液・腫瘍内科

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
PLoS One. 14;5 (6) :e11114	Noninvasive tracking of donor cell homing by near-infrared fluorescence imaging shortly after bone marrow transplantation.	牛木 隆志	血液・腫瘍内科
Leuk Res. 34: 793-799	Osteoclasts are involved in the maintenance of dormant leukemic cells.	横田 明日美	血液・腫瘍内科
Catheter Cardiovasc Interv. 76 (7) :919-23. Dec. 2010	PCI using a 4-Fr "child" guide catheter in a "mother" guide catheter: Kyushu KIWAMIR ST registry.	樋渡 敦	循環器内科
Circ J. 2010 Aug;74 (8) :1745-62.	Guidelines for diagnosis and treatment of patients with vasospastic angina (coronary spastic angina) (JCS 2008) : digest version.	JCS Joint Working Group.	循環器内科
Am J Physiol Cell Physiol. 2011 Jan;300 (1) :C87-96.	Rab5a-mediated localization of claudin-1 is regulated by proteasomes in endothelial cells.	浅香 真知子	循環器内科
J Interv Cardiol. 2010 Aug;23 (4) :295-304.	Recent perspective on coronary bifurcation intervention: statement of the "Bifurcation Club in KOKURA".	村里 嘉信	循環器内科
Cardiol. 2011 Jan;57 (1) :2-7.	The role of vascular failure in coronary artery spasm. J.	河野 宏明	循環器内科
Atherosclerosis. 211 (1) :291-6.	Sulfatides are associated with neointimal thickening after vascular injury.	井上 晃男	循環器内科
Am J Med Sci. 339 (2) :152-6.	Effect of exercise therapy on monocyte and neutrophil counts in overweight women.	道下 竜馬	循環器内科
Hypertens Res. 33 (6) :537-8.	The relationship between testosterone and metabolic syndrome.	河野 宏明	循環器内科
Intern Med. 2011;50 (5) :389-95.	Effects of aerobic exercise on lipid profiles and high molecular weight adiponectin in Japanese workers.	Guo Wei	循環器内科
J Biol Chem. 2011 Feb 4;286 (5) :3992-4002.	Mitochondrial dysfunction and increased reactive oxygen species impair insulin secretion in sphingomyelin synthase 1-null mice.	矢野 正人	循環器内科
J Clin Pharm Ther. 2011 Feb;36 (1) :103-10.	Inhibition of intestinal cholesterol absorption might explain cholesterol-lowering effect of telmisartan.	井上 晃男	循環器内科
Ther Apher Dial. Jun;14 (3) :323-7.	Ultrasonographic detection of thyroid nodules in hemodialysis patients in Japan.	佐内 透	腎臓内科

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Gastroenterol. 45:30-36, 2010.	Risk factors for complications of endoscopic submucosal dissection in gastric tumors: analysis of 478 lesions.	萬年 孝太郎	消化器内科
J Gastroenterol. 45:501-505, 2010.	Evaluation of hemostasis with soft coagulation using endoscopic hemostatic forceps in comparison with metallic hemoclips for bleeding gastric ulcers: a prospective, randomized trial.	有馬 誠一郎	消化器内科
J Gastroenterol. 45: 618-624, 2010.	Incidence and risk factor of fundic gland polyp and hyperplastic polyp in long-term proton pump inhibitor therapy: a prospective study in Japan.	藤本 一眞	消化器内科
Nutr. 46: 229-233, 2010.	Brief questioning by nursing staffs before endoscopic examination may always pick up clinical symptoms of endoscopic reflux esophagitis.	山口 加奈子	消化器内科
J. Gastroenterol. 45:1193-1200, 2010.	Risk factors for relapse of erosive GERD during long-term maintenance treatment with proton pump inhibitor: a prospective multicenter study in Japan.	藤本 一眞	消化器内科
Endocrine Journal 57(11):981-989, 2010	Serum γ -glutamyltransferase, triglyceride and total cholesterol are possible prediabetic risk markers in young Japanese men.	安西 慶三	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Hepatogastroenterology 57: 501-506, 2010	Presence of esophageal varices is a risk factor for non-hemorrhagic death of hepatocellular carcinoma patients treated with radiofrequency ablation.	水田 敏彦	肝臓・糖尿病・内分泌内科
臨床と研 87:962-968, 2010	下垂体腫瘍術後に時相性の崩尿症、ADH不適切分泌症候群の出現を認めた下垂体後葉機能異常症の3例	安西 慶三	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Hepatol Res 40: 557-565, 2010	Peginterferon-alpha-2b plus ribavirin therapy in patients with chronic hepatitis C as assessed by a multi-institutional questionnaire in Japan.	水田 敏彦	肝臓・糖尿病・内分泌内科
肝臓 51: 312-318, 2010	血管造影後に高度の自然壊死を来した肝細胞癌の2例	水田 敏彦	肝臓・糖尿病・内分泌内科
肝臓 51: 549-556, 2010	シクロスポリンの併用が有効と考えられた急性発症重症型自己免疫性肝炎の1例	水田 敏彦	肝臓・糖尿病・内分泌内科
N Engl J Med 362:761, 2010	Rituximab, B-Lymphocyte depletion, and beta-cell function.	安西 慶三	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Biochimica et Biophysica Acta 1803: 1020-1027, 2010	Regulation of tumor suppressor PDCD4 by novel protein kinase C isoforms.	水田 敏彦	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Intern Med 49(14): 1371-1375, 2010	Recurrent acute pancreatitis caused by a gastric duplication cyst communicating with an aberrant pancreatic duct.	大枝 敏	肝臓・糖尿病・内分泌内科

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
肝臓 51: 112-118, 2010	pegインターフェロン α 2a単独投与中に多形紅斑型薬疹を生じたC型慢性肝炎に対し天然型インターフェロン β 製剤の投与によりウイルス排除が得られた1例	高橋 宏和	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Hepatol Res 40: 997-1005, 2010	Efficacy and safety of radiofrequency ablation for elderly hepatocellular carcinoma patients.	高橋 宏和	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Liver Int30:538-545, 2010	Evaluation of acoustic radiation force impulse elastography for fibrosis staging of chronic liver disease: a pilot study.	高橋 宏和	肝臓・糖尿病・内分泌内科
World J Gastroenterol 17(7): 914-921, 2011	Body mass index is associated with age-at-onset of HCV infected hepatocellular carcinoma patients.	水田 敏彦	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Am J Dermatopathol 32:35-43	A revaluation of trichofolliculoma: the histopathological and immunohistochemical features.	三砂 範幸	皮膚科
Am J Dermatopathol 32:154-61	A revaluation of folliculosebaceous cystic hamartoma: the histopathological and immunohistochemical features.	三砂 範幸	皮膚科
Eur J Dermatol 20:128-9	Palisaded neutrophilic granulomatous dermatitis in systemic lupus erythematosus with a butterfly rash-like lesion.	三砂 範幸	皮膚科
J Cutan Pathol 37:1092-7	Palisaded neutrophilic granulomatous dermatitis with leukocytoclastic vasculitis in a patient without any underlying systemic disease detected to date.	三砂 範幸	皮膚科
Br J Dermatol 163:215-8	Cartilaginous matrix-producing apocrine carcinoma of the skin.	三砂 範幸	皮膚科
J Eur Acad Dermatol Venereol 24:1354-8	Nestin expression in stromal cells of trichoblastoma and basal cell carcinoma.	三砂 範幸	皮膚科
J Dermatol 37:755-7	Subcutaneous granuloma annulare with overlying localized granuloma annulare.	三砂 範幸	皮膚科
Acta Histochem Cytochem 43:1-7	The air liquid-interface, a skin microenvironment, promotes growth of melanoma cells, but not their apoptosis and invasion, through activation of mitogen-activated protein kinase.	三砂 範幸	皮膚科
Visual Dermatology 9: 292-296	CPC, Palisaded neutrophilic granulomatous dermatitis (interstitial granulomatous dermatitis).	三砂 範幸	皮膚科
J Cutan Pathol 37:678-682	Congenital myofibroma of the skin mimicking a piloleiomyoma.	井上 卓也	皮膚科

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Visual Dermatology 9:1062-1063	ブシラミンによる黄色爪	大川 毅	皮膚科
皮膚臨床 52 : 2072-2073	浅側頭動脈上に生じたAngiolymphoid Hyperplasia with Eosinophiliaの1例	永瀬 浩太郎	皮膚科
皮膚病診療 32:1099-1102	中枢神経症状を伴わない表皮母斑症候群	多良 明子	皮膚科
International Journal of Oncology 37: 2, 257- 264	A quantitative evaluation of the determinant proteins for S-1 responsiveness in a biopsy specimen assists in patients selection to neoadjuvant therapy in case of advanced gastric cancer.	橋口 和義	一般・消化器外科
World Journal of Gastrointestinal Oncology 2:9, 364-368	Immunohistochemical and molecular genetic analyses of multiple sporadic gastrointestinal stromal tumors.	平木 将紹	一般・消化器外科
Ann Surg Oncol 17:4, 1177-1186	Aberrant gene methylation in the lymph nodes provides a possible marker for diagnosing micrometastasis in gastric cancer.	平木 将紹	一般・消化器外科
Journal of Gastrointestinal Cancer 41:4, 275-280	A complete response in small cell carcinoma of the esophagus treated by S-1/cisplatin combined chemotherapy and radiotherapy.	平木 将紹	一般・消化器外科
Oncology Letters 1, 995-998	Gallbladder carcinoma with a large monolocular cystic cancerous component.	平木 将紹	一般・消化器外科
Cell Cycle 9:9, 1706- 1710	GAMT joins the p53 network: Branching into metabolism.	井手 貴雄	一般・消化器外科
日本大腸肛門病学会雑誌 63:5, 276-280	卵巣癌と鑑別が問題となった同時性両側卵巣転移をともなった大腸粘膜癌の1例	甲斐 敬太	一般・消化器外科
World J Gastroenterol. 16:28, 3567-3572	Rational therapeutic strategy for T2 gallbladder carcinoma based on tumor spread.	神谷 尚彦	一般・消化器外科
Int J Cancer 127, 1158- 1171	HIF-1alpha is an unfavorable determinant of relapse in gastric cancer patients who underwent curative surgery followed by adjuvant 5-FU chemotherapy.	中村 淳	一般・消化器外科
International Journal of Oncology 37, 845-852	Ribonucleotide reductase subunit M1 assessed by quantitative double-fluorescence immunohistochemistry predicts the efficacy of gemcitabine in biliary tract carcinoma.	中村 淳	一般・消化器外科
Surg Endosc 24:12, 2965- 2973	Lymphadenectomy along the left recurrent laryngeal nerve by a minimally invasive esophagectomy in the prone position for thoracic esophageal cancer.	能城 浩和	一般・消化器外科

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
日本臨床外科学会 71:7, 1785-1788	精神発達遅滞を背景に発症した有鉤義歯の誤飲による十二指腸穿孔の1例	奥山 桂一郎	一般・消化器外科
日本消化器外科学会雑誌 43:12, 1276-1281	虫垂炎様症状で発症した虫垂原発印環細胞癌の一例	田中 雅之	一般・消化器外科
臨床と研究 別冊 87:5, 117-120	残胃の癌の病態および治療の変遷	矢ヶ部 知美	一般・消化器外科
Ann Surg Oncol 2010 17:9, 2349-2356	Clinical Significance of CEA and CA19-9 in Postoperative Follow-up of Colorectal Cancer.	矢ヶ部 知美	一般・消化器外科
日本大腸肛門病会誌64: 1, 35-40	mFOLFOX6+Bevacizumab療法により腹腔鏡下 intersphincteric resectionが可能となった局所進行直腸癌の1例	矢ヶ部 知美	一般・消化器外科
The American Journal of Pathology 178:2, 515- 524	Expression of Hypoxic Marker CA IX Is Regulated by Site-specific DNA Methylation and Is Associated with the Histology of Gastric Cancer.	中村 淳	一般・消化器外科
手術 65:3, 289-293	腹臥位胸腔鏡下食道切除術	能城 浩和	一般・消化器外科
胃がんperspective 4: 1, 5-12	腹腔鏡下胃癌手術の現状と展望	能城 浩和	一般・消化器外科
肝臓(0451-4203) 52:2, 112-119	二相性を有するPeloid type of Hepatocellular carcinomaの1例	甲斐 敬太	一般・消化器外科
Hepatogastroenterology. 58:105, 99-102	Outcomes of patients with spontaneous rupture of hepatocellular carcinoma.	三好 篤	一般・消化器外科
The Annals of Thoracic Surgery	Operative strategy for descending and thoracoabdominal aneurysm repair with preoperative demonstration of the Adamkiewicz artery.	古川 浩二郎	胸部・心臓血管外科
胸部外科	左室自由壁破裂手術	古川 浩二郎	胸部・心臓血管外科
気管支学	Excessive dynamic airway collapse (EDAC) が疑われた1例	石北 綾子	胸部・心臓血管外科
胸部外科	心臓血管領域 経皮的心肺補助装置挿入法	蒲原 啓司	胸部・心臓血管外科

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日血外会誌	後方到達法にて瘤縫縮術を施行した腓骨動脈瘤の1例	野口 亮	胸部・心臓血管外科
Circulation	IABPの合併症とその対策	森田 茂樹	胸部・心臓血管外科
呼吸と循環	左室形成術－理論的背景と臨床的位置付け－	森田 茂樹	胸部・心臓血管外科
Circulation Journal	An Old Ventricular Assist Device Still Working for Patients With End-Stage Heart Failure in Japan.	森田 茂樹	胸部・心臓血管外科
Clinical Engineering	僧帽弁置換術と体外循環法	森田 茂樹	胸部・心臓血管外科
胸部外科	多発性骨髄腫を合併した僧帽弁置換術	野口 亮	胸部・心臓血管外科
Neurosurgery. 66 (suppl 21) :275-280	Microvascular Decompression for Glossopharyngeal Neuralgia Through the Transcondylar Fossa (Supracondylar Transjugular Tubercle) Approach.	河島 雅倒	脳神経外科
AJNR Am J Neuroradiol 31:1713-1718	Decrease in leptomeningeal ivy sign on fluid-attenuated inversion recovery images after cerebral revascularization in patients with moyamoya disease.	河島 雅倒	脳神経外科
Jpn J Neurosurg (Tokyo) 19:810-816	手術アプローチの選択とピットフォールII Transcondylar fossa approach (顆窩経由法) の微小外科解剖	河島 雅到	脳神経外科
Skull Base An Interdisciplinary Approach. 20 (2) :83-92	Transcondylar fossa (Supracondylar transjugular tubercle) approach - Anatomical basis for the approach, surgical procedures, and surgical experience.	松島 俊夫	脳神経外科
Interv Neuroradiol 16:409-419	Hemodynamic Studies of Intracranial Dural Arteriovenous Fistulas Using Arterial Spin-labeling MR Imaging.	野口 智幸	脳神経外科
Neurosurg Rev. [Epub ahead of print] 2011.	Stitched sling retraction technique for microvascular decompression: procedures and techniques based on an anatomical viewpoint.	増岡 淳	脳神経外科
Hip Joint Vol. 36:521-526	当院における特発性大腿骨頭壊死症例の検討	橋本 哲	整形外科
整形外科と災害外科59 (1) : 135-140	人工股関節再置換術における大腿骨側再建の問題点とその対策	橋本 哲	整形外科

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Journal of Spine Research 1(7):1299-1302	変形性股関節症における腰痛の検討	森本 忠嗣	整形外科
整形外科と災害外科Vol. 59: 126-130	40歳未満の若年患者に対する人工股関節全置換術	本家 秀文	整形外科
Hip joint 2010 Vol. 36:478-480	吸収性screwを使用した寛骨臼移動術	河野 俊介	整形外科
Journal of biomedical materials research. Part A 2010;1:505-509	Antibacterial properties of nanostructured silver titanate thin films formed on a titanium plate.	井上 侑子	整形外科
整形外科と災害外科59 (2) : 319-322	腰部脊柱管狭窄診断サポートツールの妥当性の検証 変形性股関節症における検出率	森本 忠嗣	整形外科
日本足の外科学会雑誌 31(2) : 22-25	脚長差を有する症例の足部変化 (第2報)	本岡勉、田中博史	整形外科
Journal of biomedical materials research. Part A 2010;92. 386-389	In vivo antibacterial and silver-releasing properties of novel thermal sprayed silver, containing hydroxyapatite.	嶋崎 貴文	整形外科
Hip Joint Vol 36. 2010. 37-39	当院における人工股関節手術手技の標準化	園畑 素樹	整形外科
Monthly Book Orthopaedics 2010 23 (4) 1-6	感染人工関節の治療における主治医としての責務	園畑 素樹	整形外科
Orthopedic Reviews 2010;2:E11. 33-35	Subcutaneous Achilles tendon rupture in an eighty-year-old female with an absence of risk factors.	園畑 素樹	整形外科
整形外科と災害外科59 (1) : 183-186	人工膝関節全置換術後の残存する屈曲拘縮の発生因子についての検討	高山 剛	整形外科
Int. J. Urol 17 (4) : 369-376.	Effects of adipocytes on the proliferation and differentiation of prostate cancer cells in a 3-D culture model.	金子 新	泌尿器科
臨泌. 64 (10) : 721-727.	手術手技 小児泌尿器科手術Ⅱ 性器系の手術⑥ 女兒外陰部形成術 (陰核・陰唇・膣形成術, 造膣術) .	野口 満	泌尿器科
Urotoday Int. J. 3(4) :10. 3834/uij. 1944-5784.	Cystic renal leiomyosarcoma treated with partial nephrectomy.	佐藤 勇司	泌尿器科

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Surg Pathol. 34 (12) : 1862-7.	Prostate cancer topography and patterns of lymph node metastasis.	徳田 雄治	泌尿器科
泌尿器外科. 23 (8) : 1139-1141.	当院における前立腺がんに対する放射線外照射療法の治療成績の検討.	徳田 雄治	泌尿器科
排尿障害プラクティス. 19 (1) : 38-44.	メタボリックシンドロームとLUTS治療.	野口 満	泌尿器科
Kidney International. 79:135.	The emerging concept of a fibrotic microenvironment in CKD.	有動 和馬	泌尿器科
Angiology Frontier9 (4) : 102-105	足病変を用いた形成外科基本手技のトレーニング—創傷管理から血管吻合まで—	上村 哲司	形成外科
形成外科53 (10) : 1115- 1119	経結膜アプローチを用いた眼窩底への到達法について	上村 哲司	形成外科
形成外科53 (12) : 1297- 1304	下腿潰瘍に対するwound bed preparation (WBP)	苅部 大輔	形成外科
手術64 (12) : 1783-1788	熱傷の処置	苅部 大輔	形成外科
形成外科53増刊号 : 54	殿部慢性膿皮症, 化膿性汗管炎	苅部 大輔	形成外科
形成外科54 (2) : 135-140	アプローチに関するクリニカル・クエッションを作成して	上村 哲司	形成外科
日本下肢救済・足病学会 誌2011 3 (1) : 47-51	重症虚血肢患者の肢位の違いが下肢皮膚灌流圧に与える影響	川崎 東太	形成外科
創傷 1 (3) : 133-137	共通のアルゴリズムを用いた糖尿病足病変の治療	峯岸 季清	形成外科
Radiotherapy and Oncology 95 : 240-244	Analysis of dose-volume histogram parameters for radiation pneumonitis after definitive concurrent chemoradiotherapy for esophageal cancer.	平川 浩一	放射線科
J Ultrasound Med. 2010 Oct;29 (10) : 1507-10.	Sonographic confirmation of the association between calcified cerebral emboli and mitral annular calcification.	野口 智幸	放射線科

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Anticancer Res. 30:2959-2968.	Postoperative external beam radiotherapy for resected pancreatic adenocarcinoma: impact of chemotherapy on local control and survival.	徳丸 直郎	放射線科
Jpn J Radiol. 28:453-459.	Magnetic resonance imaging of large chromophobe renal cell carcinomas.	篠栗 弘平	放射線科
Psychiatry Res. 2010 Oct 30;184(1):29-37.	Regional gray and white matter volume abnormalities in obsessive-compulsive disorder: a voxel-based morphometry study.	野口 智幸	放射線科
Gastroenterological Endoscopy 52(7)1671-1676.	内視鏡的バルーン拡張術にて治療しえたPlummer-Vinson症候群の2例.	水口 昌伸	放射線科
Eur Radiol. ;20(1):227-33. 2010	Intra- and interhemispheric variations of diffusivity in subcortical white matter in normal human brain.	野口 智幸	放射線科
Neurol Med Chir. 51(3):195-200.	Assessment of moyamoya disease with 3.0-T magnetic resonance angiography and magnetic resonance imaging versus conventional angiography.	野口 智幸	放射線科
日本小児体液研究会会誌2 巻Page23-26(2010)	摂食障害のある母体から出生した偽性Bartter症候群の一例.	江頭 政和	小児科
日本小児心身医学会雑誌 19(1)52-58. 2010	育て直し療法を重視して対応した不登校症例の検討 子どもの心とからだ	藤田 一郎	小児科
日本小児科学会雑誌 114(11):1739-1743、2010	反復性腹痛を呈するH. pylori陽性の慢性萎縮性胃炎 児に対して除菌療法を試みた1例.	垣内 俊彦	小児科
小児科診療 74(1):149-151、2011	バンコマイシン(VCM)とセフトラジム(CAZ)使用中に発症した偽膜性腸炎の1例.	垣内 俊彦	小児科
2010 Jul;99(7):1102-4. Epub 2010 Mar 5	Psoriasiform skin lesion and suppurative acrodermatitis associated with Kawasaki disease followed by the treatment with infliximab: a case report. :Acta Paediatr.	岸本 小百合	小児科
Pediatr Int 52:319-326, 2010	Japanese pediatric guideline for the treatment and management of bronchial asthma 2008.	近藤 直実	小児科
佐賀大学教育実践研究: No. 26:11-18:2010	糖尿病にともなう特別ニードを支援するカリキュラムの策定に関する研究VI-認知・行動特性が低血糖対処に及ぼす影響について-	久野 建夫	小児科
Brain Dev (2010) 32:759-63	Frequent association of autism spectrum disorder in patients with childhood onset epilepsy.	松尾 宗明	小児科

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Acta Med Nagasaki 2010;54:53-58.	The Uteroglobin gene G38A polymorphism is not associated with Kawasaki disease.	中嶋 一寿	小児科
日本小児アレルギー学会 誌. 2010;24 (1) :135-142	下部消化管内視鏡検査で好酸球性直腸炎と診断し食物過敏性直腸炎が疑われた一例.	尾形 善康	小児科
J. Fac. Edu. Saga Univ. : Vol. 15, No. 1 : 1-10 : 2010	幼稚園における食育推進計画とその評価	岡 智代	小児科
発達腎研究会誌18巻1号 Page18-22 (2010. 07)	低出生体重が発症因子と考えられた巣状分節性糸球体硬化症の一例.	大塚 泰史	小児科
日本小児腎臓病学会雑誌 23巻1号 Page47- 52 (2010. 04)	血漿交換療法が奏効した巣状分節性糸球体硬化症の1例.	大塚 泰史	小児科
日本小児腎臓病学会雑誌 誌、23巻2号p102-106	LAMP 法により早期に検出した、急性腎不全を合併したYersinia Pseudotuberculosis感染症の一例	酒井 菜那	小児科
小児高血圧研究会誌7巻1 号 Page17-21 (2010. 06)	Posterior Reversible Encephalopathy Syndrome (PRES) をきたした溶連菌感染後急性糸球体腎炎の一例.	酒井 菜那	小児科
DNA多型 (2010) 18 : 264- 267.	CDGの検査で遭遇したトランスフェリンの2つの変異型.	湯浅 勲	小児科
日本小児アレルギー学会 誌2010;24 (3) :369-372	Does Chlamydia pneumonia infection trigger to development of asthma in wheezy infant?	在津 正文	小児科
British Journal of Pharmacology. 160: 1662-1676	High concentrations of dexmedetomidine inhibit compound action potentials in frog sciatic nerves without α_2 adrenoceptor activation.	小杉 寿文	麻酔科蘇生科
循環制御. 31 (2)	Sivelestat Relaxes Porcine Coronary Arteries via Inhibition of Ca^{2+} Sensitization without Affecting Ca^{2+} -Induced Contraction.	前田 祥範	麻酔科蘇生科
日本臨床麻酔学会誌. 30 (2) : 247-252	佐賀大学医学部付属病院における気管内手術時の麻酔管理の検討	松本 浩一	麻酔科蘇生科
Journal of Infection and Chemotherapy. 16 (4) : 272-279	Clinical features of Vibrio vulnificus infections in the coastal areas of the Ariake Sea, Japan.	松本 浩一	麻酔科蘇生科
ペインクリニック. 31 (2) : 195-203	がん患者の筋・筋膜性疼痛に対するトリガーポイント療法の有用性	宮崎 東洋	麻酔科蘇生科

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本臨床麻酔学会誌. 30 (3) : 480-484	先天性無痛無汗症患者のプロポフォル単独による麻酔経験 --術中の血中カテコラミン値の変化--	上村 裕平	麻酔科蘇生科
ペインクリニック. 31: S66-S72, 2010	がん疼痛の薬物治療 4) オピオイドローテーション	小杉 寿文	麻酔科蘇生科
緩和ケア. 20 (6) : 611-615	オピオイドローテーション私はこちらしている 全身投与からくも膜下投与へのオピオイドローテーション	小杉 寿文	麻酔科蘇生科
痛みと漢方. 20: 91-94	転移性脳腫瘍および脊髄腫瘍による症状の緩和に黄連解毒湯が奏功した2症例	小杉 寿文	麻酔科蘇生科
ペインクリニック. 32 (1) : 59-66, 2011.	腹腔神経叢ブロック	平川 奈緒美	麻酔科蘇生科
Clinical Engineering. 22 (3) : 255-257, 2011.	心臓手術の実際 僧帽弁置換術における麻酔管理	谷川 義則	麻酔科蘇生科
Japan Society of Obstetrics and Gynecology Vol. 36, No. 2:336-343	Gene expression profiles and microsatellite instability in uterine corpus endometrioid adenocarcinoma.	小屋松 安子	産科婦人科
産科と婦人科 Vol. 77 No. 8 971-976 2010. 8. 1 診断と治療社	下部尿路症状のない産婦人科受診患者における過活動膀胱の実態調査	中尾 佳史	産科婦人科
九州連合産科婦人科学会雑誌 Vol. 61 21-24	当科で管理した耐糖能異常合併妊娠症例の臨床検討 --妊娠糖尿病と糖尿病合併妊娠の比較	中橋 弘顕	産科婦人科
あたらしい眼科 27 : 535-538	若年性特発性関節炎症状で発症した若年発症サルコイドーシスの1例.	相馬 美穂	眼科
臨眼64 : 967-972	ぶどう膜炎症状で発症したNK/T細胞リンパ腫の1例.	相馬 美穂	眼科
日眼会誌 114 : 678-682	サルコイドーシスの診断-新診断基準の検討.	清武 良子	眼科
眼科手術 23 : 633-637	空気タンポナーデを用いた網膜剥離に対する硝子体手術時の成績.	村田 和久	眼科
眼科手術 52 : 1829-1833	水晶体囊真性落屑の走査電子顕微鏡所見.	田中 ふみ	眼科

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
眼科手術 23:577-580	網膜剥離に対する初回硝子体手術 液-空気置換と裂孔閉	平田 憲	眼科
J Glaucoma, 2010 Apr 30. [Epub ahead of print]	Combined intravitreal bevacizumab and trabeculectomy with mitomycin C versus trabeculectomy with mitomycin C alone for neovascular glaucoma.	瀧原 祐史	眼科
癌と化学療法, 37, 8, 1471-1476	咽頭・喉頭癌に対するS-1併用化学放射線療法とCDDP併用化学放射線療法の比較検討	倉富 勇一郎	耳鼻咽喉科
Int Immunol. 22(9):739-747	Endotoxin tolerance attenuates airway allergic inflammation in model mice by suppression of the T-cell stimulatory effect of dendritic cells.	松下 英友	耳鼻咽喉科
Ann Otol Rhinol Laryngol. 119:22-26	Relationship between squamous cell carcinoma antigen and the clinical severity of allergic rhinitis caused by Dermatophagoides farinae and Japanese cedar pollen.	鈴木 久美子	耳鼻咽喉科
日本口腔外科学会雑誌	全顎的に著しい歯の動揺を伴う原発性高シュウ酸尿症と考えられた1例	合島怜央奈・山下佳雄	歯科口腔外科
Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod	Development of a novel PCR method to comprehensively analyze salivary bacterial flora and its application to patients with odontogenic infections.	秋山 兼範	歯科口腔外科
Brain Research	Excitation of rat spinal ventral horn neurons by purinergic P2X and P2Y receptor activation.	青山 貴博	歯科口腔外科
日口診誌	上顎歯根嚢胞全摘開創後に扁平上皮癌の発生が認められた1例	檀上 敦	歯科口腔外科
ANTHROPOLOGICAL SCIENCE	Comparative study of Ainu, their ancestors, and neighbors: assessment based on metric and nonmetric dental data.	鏑木 正紀	歯科口腔外科
顎顔面補綴	日本のエビテーゼ治療の現状	後藤 昌昭	歯科口腔外科
顎顔面補綴	本邦の上顎欠損に対する顎補綴治療の現状 アンケートによる調査	後藤 昌昭	歯科口腔外科
J. Dent. Res.	Oral Epithelial Cells are Activated via TRP Channels.	檀上 敦	歯科口腔外科
日本口腔顎顔面技工研究会誌	エビテーゼの変色と耐久性	山口 能正	歯科口腔外科

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Asian J Oral Maxillofac Surg	Epithelial-myoepithelial carcinoma of a minor salivary gland of the intrabuccal mucosa: A case report.	山下 佳雄	歯科口腔外科
Indian J Crit Care Med. 2010 Oct;14 (4) :175-9.	Selection of acute blood purification therapy according to severity score and blood lactic acid value in patients with septic shock.	阪本 雄一郎	救命救急センター
日本アフエレス学会雑誌30 (2) : 110-115, 2011	AKIとアフエレス	阪本 雄一郎	救命救急センター
救急医学35: 334-341, 2011	腓損傷の診断と治療	阪本 雄一郎	救命救急センター
救急医学35: 466-469, 2011	敗血症性ショックの治療経験	阪本 雄一郎	救命救急センター
日本腹部救急医学会雑誌 31 (4) : 643-646, 2011	肝損傷の治療戦略—施設間格差の問題点をふまえて—	阪本 雄一郎	救命救急センター
Lung Cancer. 69:232-238,	Expression of Mina53, a novel c-Myc target gene, is a favorable prognostic marker in early stage lung cancer.	小宮 一利	検査部
J Cancer Res Clin Oncol. 136:465-73,	Mina53, a novel c-Myc target gene, is frequently expressed in lung cancers and exerts oncogenic property in NIH/3T3 cells.	小宮 一利	検査部
炭酸脱水酵素研究雑誌 (目炭脱研誌), 1: 55-59	各種細菌の代謝および発育能に対する炭酸脱水酵素阻害剤の影響	永沢 善三	検査部
Clinica Chimica Acta. 411:776-778	Evaluation of APTIMA Combo 2 for cross-reactivity with oropharyngeal Neisseria species and other microorganisms.	永沢 善三	検査部
臨床と微生物, 37:73-80	各種ATCC株を用いたマイクロスキャン Rapid Plus シリーズの性能評価	中島 由佳理	検査部
感染症学雑誌, 84:276-284	ベイズ解析を用いた診断確率定量法によるMRSA下気道感染症診断の試み	永田 正喜	検査部
Journal of Medical Microbiology, 59:245-250	Moraxella catarrhalis bacteraemia associated with prosthetic vascular graft infection.	Sano N	検査部
JARMAM, 21:1-11	自動機器を用いた薬剤感受性試験の再現性と特性に関する比較研究	清祐 麻紀子	検査部

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
J Gastroenterol Hepatol.	NSAIDs is a significant risk factor for colonic diverticular hemorrhage in elder patients: evaluation by a case-control study.	江口 有一郎	総合診療部
World J Hepatol. 27:2(10):374-83.	Current status and agenda in the diagnosis of nonalcoholic steatohepatitis in Japan.	江口 有一郎	総合診療部
J Gastroenterol. 46(2):257-68.	Japan Study Group of Nonalcoholic Fatty Liver Disease (JSG-NAFLD). A simple clinical scoring system using ferritin, fasting insulin, and type IV collagen 7S for predicting steatohepatitis in nonalcoholic fatty liver disease.	江口 有一郎	総合診療部
J Gastroenterol. 45(2):218-24.	Age-related fat deposition in multifidus muscle could be a marker for nonalcoholic fatty liver disease.	江口 有一郎	総合診療部
J Gastroenterol 2010, Nov 3	Metabolic factors are associated with serum alanine aminotransferase levels in patients with chronic hepatitis C.	江口 有一郎	総合診療部
J Gastroenterol 46 Suppl 1	The pathological role of visceral fat accumulation in steatosis, inflammation, and progression of nonalcoholic fatty liver disease.	江口 有一郎	総合診療部
Dig Dis Sci 55:183-189	Whole-Body Insulin Sensitivity Index Is a Highly Specific Predictive Marker for Virological Response to Peginterferon Plus Ribavirin Therapy in Chronic Hepatitis C Patients with Genotype 1b and High Viral Load.	江口 有一郎	総合診療部
Intern Med. 2011;50(3):177-8.	Importance of a physical examination for efficient differential diagnosis of abdominal pain: diagnostic usefulness of Carnett's test in psychogenic abdominal pain.	松永 諭、 江口 有一郎	総合診療部
Oncol Rep. 2011 Jan;25(1):159-66.	Vitamin K2 augments 5-fluorouracil-induced growth inhibition of human hepatocellular carcinoma cells by inhibiting NF- κ B activation.	江口 有一郎	総合診療部
病院 70(2):94-100	病院総合医の現状と展望	小泉 俊三	総合診療部
臨床と研究 88(3):344-348	一般診療における不安障害・うつ病の評価と治療	小泉 俊三	総合診療部
Pathol Int 60(4):259-67	Organotypic culture of human bone marrow adipose tissue.	内橋 和芳	病理部
J Gastroenterol. 45(4):406-12.	Coccoid Helicobacter pylori exists in the palatine tonsils of patients with IgA nephropathy.	草野 謙一郎	病理部
国立大学法人リハビリテーションコ・メディカル学術大会誌. 6-9	当院における心臓リハビリテーションの現状と課題	竹井 健夫	リハビリテーション部、リハビリテーション科

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門	
Medical Practice 27(10)	補装具	浅見 豊子	先進総合機能回復センター、リハビリテーション科	
感染症学雑誌 84. 3, 276-283	ベイズ解析を用いた診断確率定量によるMRSA下気道感染症 診断の試み	青木 洋介	感染制御部	
Journal of Infection and Chemotherapy DOI 10.1007/s10156-010-0119-8	The importance of pharmacokinetic consultation of cefepime treatment for Pseudomonas aeruginosa bacteremia: a case report of severe thermal burn injury.	青木 洋介	感染制御部	
医療薬学 36巻4号 252-261	半分に分割された錠剤の持参薬確認に及ぼす影響	平野 和裕	薬剤部	
日本医療マネジメント学会雑誌 11巻3号 189-195	外来がん化学療法患者の支援における地域薬剤師の問題点についての検討	島ノ江 千里	薬剤部	小計6件
医療薬学 37巻1号 1-12	患者のヘルスリテラシーの問題意識と薬局薬剤師によるカウセリングの活用との関連性の検討	島ノ江 千里	薬剤部	合計230件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 宮崎 耕治		
管理担当者氏名	総務課長：潮田 尚次 看護部長：長谷川 正志	患者サービス課長：阿部 博美 放射線部長：松島 俊夫	薬剤部長：藤戸 博 診療記録センター：成澤 寛

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		総務課 患者サービス課 薬剤部 看護部 放射線部 診療記録センター	診療記録は、診療記録センターにおいて、1患者1ファイルで集中管理している。 エックス線写真は、放射線部において集中管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	患者サービス課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	患者サービス課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	—	
	紹介患者に対する医療提供の実績	患者サービス課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	患者サービス課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十一の第一項各号及び第九條の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	患者サービス課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	患者サービス課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者サービス課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	経営管理課

条の十一 第一項 各号及び第九 条の二十三 第一項 第一号に掲げる 体制の確保の 状況	従業者に対する院内 感染対策のための研修 の実施状況	患者サービス課
	感染症の発生状況の 報告その他の院内感染 対策の推進を目的とし た改善のための方策の 実施状況	患者サービス課 感染制御部
	医薬品の使用に係る 安全な管理のための責 任者の配置状況	薬剤部
	従業者に対する医薬 品の安全使用のための 研修の実施状況	薬剤部
	医薬品の安全使用の ための業務に関する手 順書の作成及び当該手 順書に基づく業務の実 施状況	薬剤部
	医薬品の安全使用の ために必要となる情報 の収集その他の医薬品 の安全使用を目的とし た改善のための方策の 実施状況	薬剤部
	医療機器の安全使用 のための責任者の配置 状況	MEセンター
	従業者に対する医療 機器の安全使用のため の研修の実施状況	MEセンター
	医療機器の保守点検 に関する計画の策定及 び保守点検の実施状況	MEセンター
	医療機器の安全使用 のために必要となる情 報の収集その他の医療 機器の安全使用を目的 とした改善のための方 策の実施状況	MEセンター

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務部長 阿部 文生
閲覧担当者氏名	患者サービス課長 阿部 博美
閲覧の求めに応じる場所	医療相談室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	71.1 %	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		9,692 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,201 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,975 人
	D: 初診の患者の数		19,753 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無																																										
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>第 1 本院における医療安全管理に関する基本的考え方 第 2 医療安全管理委員会その他本院内の組織に関する基本的事項 第 3 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針 第 4 本院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 第 5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 第 6 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当指針の閲覧に関する基本方針を含む） 第 7 患者からの相談への対応に関する基本方針 第 8 その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p> <p>※「佐賀大学医学部附属病院における医療に係る安全管理のための指針」添付</p>																																											
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回																																										
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>医療安全管理委員会では、次に掲げる事項の審議をおこなう。</p> <p>(1) 医療事故に係る情報の収集及び提供に関すること。 (2) 発生した医療事故の原因分析及び改善策等に関すること。 (3) 医療事故防止のための教育・研修に関すること。 (4) その他医療安全管理に関し必要な事項</p> <p>※「佐賀大学医学部附属病院医療安全管理委員会規程」、「医療安全管理委員会名簿」添付</p>																																											
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 8 回																																										
<p>・ 研修の主な内容：</p> <table border="1" data-bbox="220 1400 1364 2011"> <thead> <tr> <th></th> <th>研修内容（テーマ・講師）</th> <th>研修期間</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第1回「モニタのアラームと安全管理」 （野見山 晃介（日本光電九州株式会社 品質管理 安全管理部 安全管理情報 担当））</td> <td>平成22年 6月 8日（0.5時間）</td> <td rowspan="6" style="text-align: center;">1,025 名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>（本開研修会の収録ビデオ上映）</td> <td>平成22年 6月22日（0.5時間）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>”</td> <td>平成22年 6月23日（0.5時間）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>”</td> <td>平成22年 6月25日（0.5時間）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>”</td> <td>平成22年 6月28日（0.5時間）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>”</td> <td>平成22年 6月29日（0.5時間）</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第2回「人工呼吸中の患者の安全」－RST活 動を通しての気付きと確認事項－ （林 真一郎 診療教授（RSTリーダー 呼吸器内科））</td> <td>平成22年 9月 7日（0.5時間）</td> <td rowspan="6" style="text-align: center;">1,002 名</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>（本開研修会の収録ビデオ上映）</td> <td>平成22年 9月21日（0.5時間）</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>”</td> <td>平成22年 9月22日（0.5時間）</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>”</td> <td>平成22年 9月24日（0.5時間）</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>”</td> <td>平成22年 9月27日（0.5時間）</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>”</td> <td>平成22年 9月28日（0.5時間）</td> </tr> </tbody> </table>			研修内容（テーマ・講師）	研修期間	参加人数	1	第1回「モニタのアラームと安全管理」 （野見山 晃介（日本光電九州株式会社 品質管理 安全管理部 安全管理情報 担当））	平成22年 6月 8日（0.5時間）	1,025 名	2	（本開研修会の収録ビデオ上映）	平成22年 6月22日（0.5時間）	3	”	平成22年 6月23日（0.5時間）	4	”	平成22年 6月25日（0.5時間）	5	”	平成22年 6月28日（0.5時間）	6	”	平成22年 6月29日（0.5時間）	7	第2回「人工呼吸中の患者の安全」－RST活 動を通しての気付きと確認事項－ （林 真一郎 診療教授（RSTリーダー 呼吸器内科））	平成22年 9月 7日（0.5時間）	1,002 名	8	（本開研修会の収録ビデオ上映）	平成22年 9月21日（0.5時間）	9	”	平成22年 9月22日（0.5時間）	10	”	平成22年 9月24日（0.5時間）	11	”	平成22年 9月27日（0.5時間）	12	”	平成22年 9月28日（0.5時間）
	研修内容（テーマ・講師）	研修期間	参加人数																																								
1	第1回「モニタのアラームと安全管理」 （野見山 晃介（日本光電九州株式会社 品質管理 安全管理部 安全管理情報 担当））	平成22年 6月 8日（0.5時間）	1,025 名																																								
2	（本開研修会の収録ビデオ上映）	平成22年 6月22日（0.5時間）																																									
3	”	平成22年 6月23日（0.5時間）																																									
4	”	平成22年 6月25日（0.5時間）																																									
5	”	平成22年 6月28日（0.5時間）																																									
6	”	平成22年 6月29日（0.5時間）																																									
7	第2回「人工呼吸中の患者の安全」－RST活 動を通しての気付きと確認事項－ （林 真一郎 診療教授（RSTリーダー 呼吸器内科））	平成22年 9月 7日（0.5時間）	1,002 名																																								
8	（本開研修会の収録ビデオ上映）	平成22年 9月21日（0.5時間）																																									
9	”	平成22年 9月22日（0.5時間）																																									
10	”	平成22年 9月24日（0.5時間）																																									
11	”	平成22年 9月27日（0.5時間）																																									
12	”	平成22年 9月28日（0.5時間）																																									

13	第3回「院内暴力・暴言への対応について」(佐賀警察署 刑事官 警視 川久保 正文)	平成22年12月 7日 (0.5時間)	920 名
14	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成22年12月16日 (0.5時間)	
15	"	平成22年12月17日 (0.5時間)	
16	"	平成22年12月20日 (0.5時間)	
17	"	平成22年12月21日 (0.5時間)	
18	"	平成22年12月22日 (0.5時間)	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有)・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

【問題点の把握方法】

インシデント・アクシデント速報システムによる報告、インシデント・アクシデントレポートは全て医療安全管理室で収集している。

【問題点の分析方法】

集まった事例は、GRMが影響度を分類のうえサマリ化する。サマリは定例の医療安全管理室会議において分析を行う。

【改善策の検討方法】

- (1) 問題発生的事象に関連する部署とGRMで対応策の検討を行う。
- (2) サマリは、定例の医療安全管理室会議において対応策等の検討を行う。
- (3) 医療安全管理委員会において審議する。

【改善事例】

平成22年 6月 1日 身体抑制についての同意書について
平成22年 6月10日 中心静脈カテーテル挿入(CVC)時の診療録の記載について
平成22年 7月22日 医療安全管理マニュアルの改訂について
平成22年 7月22日 医療安全管理ポケットマニュアルの改訂について
平成22年 8月 2日 気管切開術後のEasy Capの配備について
平成22年 9月16日 患者認識リストバンドに関する運用について
平成23年 1月20日 医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂について
平成23年 1月20日 内視鏡検査手順の改定について
平成23年 1月20日 手術部の薬剤の保管について
平成23年 2月15日 医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂について
平成23年 2月28日 医薬品の保管管理と取扱いの徹底について
平成23年 3月17日 「患者様へ」の院内暴力・暴言等対応ポスター作成
平成23年 5月19日 医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂について
平成23年 5月25日 平成22年度医療安全確保のための業務改善報告について
平成23年 5月31日 ディプリバン注(1%プロフォール注射剤)の使用について

<p>【インシデント・アクシデント報告件数】</p> <p>平成23年度 671件（平成23年7月現在）</p> <p>（インシデント 671件（うち、医師の報告件数 35件）</p> <p>（アクシデント 0件（うち、医師の報告件数 0件）</p> <p>平成22年度 2,390件</p> <p>（インシデント 2,381件（うち、医師の報告件数 150件）</p> <p>（アクシデント 9件（うち、医師の報告件数 4件）</p> <p>平成21年度 2,375件（うち、医師の報告件数 162件）</p> <p>平成20年度 2,162件（うち、医師の報告件数 164件）</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（1名）・無
⑤ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（5名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<p>・ 所属職員： 専任（1）名 兼任（17）名</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。</p> <p>(2) 医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</p> <p>(3) 患者や家族への説明など医療事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</p> <p>(4) 医療事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに必要な指導を行うこと。</p> <p>(5) 医療安全に係る連絡調整に関すること。</p> <p>(6) その他医療安全対策の推進に関すること。</p>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無																																																													
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>第1 本院における院内感染対策に関する基本的考え方 第2 院内感染対策のための委員会その他本院内の組織に関する基本的事項 第3 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 第4 感染症の発生状況の報告に対する基本的対応方針 第5 院内感染発生時の対応に関する基本方針 第6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 第7 その他の本院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p> <p>※「佐賀大学医学部附属病院における医療に係る院内感染対策のための指針」添付</p>																																																														
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回																																																													
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>院内感染対策委員会では、次に掲げる事項の審議をおこなう。</p> <p>(1) 院内感染の予防に関すること。 (2) 院内感染予防に係る情報の収集に関すること。 (3) 院内感染源及び感染経路の調査に関すること。 (4) 院内感染予防対策の確立に関すること。 (5) 感染制御部の運営に関すること。 (6) その他感染予防及び対策に関すること。</p>																																																														
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 1 8 回																																																													
<p>・ 研修の主な内容：</p> <table border="1" data-bbox="225 1227 1426 1933"> <thead> <tr> <th></th> <th>研修内容 (テーマ・講師)</th> <th>研修期間</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第1回「カテーテル関連血流感染予防策について」(感染制御部スタッフ)</td> <td>平成22年 6月 8日 (0.5時間)</td> <td rowspan="6">1,025 名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>(本開研修会の収録ビデオ上映)</td> <td>平成22年 6月22日 (0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>"</td> <td>平成22年 6月23日 (0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>"</td> <td>平成22年 6月25日 (0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>"</td> <td>平成22年 6月28日 (0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>"</td> <td>平成22年 6月29日 (0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第2回「見直そう!見近な感染対策」ー現場でやっていない?こんなことー(感染制御部スタッフ)</td> <td>平成22年 9月 7日 (0.5時間)</td> <td rowspan="6">1,002 名</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>(本開研修会の収録ビデオ上映)</td> <td>平成22年 9月21日 (0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>"</td> <td>平成22年 9月22日 (0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>"</td> <td>平成22年 9月24日 (0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>"</td> <td>平成22年 9月27日 (0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>"</td> <td>平成22年 9月28日 (0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>第3回「院内感染で注視すべき耐性菌について」(感染制御部スタッフ)</td> <td>平成22年12月 7日 (0.5時間)</td> <td rowspan="6">920 名</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>(本開研修会の収録ビデオ上映)</td> <td>平成22年12月16日 (0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>"</td> <td>平成22年12月17日 (0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>"</td> <td>平成22年12月20日 (0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>"</td> <td>平成22年12月21日 (0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>"</td> <td>平成22年12月22日 (0.5時間)</td> </tr> </tbody> </table>			研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数	1	第1回「カテーテル関連血流感染予防策について」(感染制御部スタッフ)	平成22年 6月 8日 (0.5時間)	1,025 名	2	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成22年 6月22日 (0.5時間)	3	"	平成22年 6月23日 (0.5時間)	4	"	平成22年 6月25日 (0.5時間)	5	"	平成22年 6月28日 (0.5時間)	6	"	平成22年 6月29日 (0.5時間)	7	第2回「見直そう!見近な感染対策」ー現場でやっていない?こんなことー(感染制御部スタッフ)	平成22年 9月 7日 (0.5時間)	1,002 名	8	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成22年 9月21日 (0.5時間)	9	"	平成22年 9月22日 (0.5時間)	10	"	平成22年 9月24日 (0.5時間)	11	"	平成22年 9月27日 (0.5時間)	12	"	平成22年 9月28日 (0.5時間)	13	第3回「院内感染で注視すべき耐性菌について」(感染制御部スタッフ)	平成22年12月 7日 (0.5時間)	920 名	14	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成22年12月16日 (0.5時間)	15	"	平成22年12月17日 (0.5時間)	16	"	平成22年12月20日 (0.5時間)	17	"	平成22年12月21日 (0.5時間)	18	"	平成22年12月22日 (0.5時間)
	研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数																																																											
1	第1回「カテーテル関連血流感染予防策について」(感染制御部スタッフ)	平成22年 6月 8日 (0.5時間)	1,025 名																																																											
2	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成22年 6月22日 (0.5時間)																																																												
3	"	平成22年 6月23日 (0.5時間)																																																												
4	"	平成22年 6月25日 (0.5時間)																																																												
5	"	平成22年 6月28日 (0.5時間)																																																												
6	"	平成22年 6月29日 (0.5時間)																																																												
7	第2回「見直そう!見近な感染対策」ー現場でやっていない?こんなことー(感染制御部スタッフ)	平成22年 9月 7日 (0.5時間)	1,002 名																																																											
8	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成22年 9月21日 (0.5時間)																																																												
9	"	平成22年 9月22日 (0.5時間)																																																												
10	"	平成22年 9月24日 (0.5時間)																																																												
11	"	平成22年 9月27日 (0.5時間)																																																												
12	"	平成22年 9月28日 (0.5時間)																																																												
13	第3回「院内感染で注視すべき耐性菌について」(感染制御部スタッフ)	平成22年12月 7日 (0.5時間)	920 名																																																											
14	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成22年12月16日 (0.5時間)																																																												
15	"	平成22年12月17日 (0.5時間)																																																												
16	"	平成22年12月20日 (0.5時間)																																																												
17	"	平成22年12月21日 (0.5時間)																																																												
18	"	平成22年12月22日 (0.5時間)																																																												

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

情報を院内Web上で毎日更新し、院内に公開している。また、新規発生MRSAやその他耐性菌については、感染制御部で部署への訪問や確認を行っている。

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無									
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回									
・ 研修の主な内容： <table border="1"><thead><tr><th></th><th>研修内容（テーマ・講師）</th><th>研修期間</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>「医薬品の安全使用について」 「血液ガス採取の注意点と検査情報」</td><td>平成22年10月19日（1時間）</td></tr><tr><td>2</td><td>「内服薬処方せんの記載方法の在り方について」</td><td>平成23年 2月 8日（1時間）</td></tr></tbody></table>			研修内容（テーマ・講師）	研修期間	1	「医薬品の安全使用について」 「血液ガス採取の注意点と検査情報」	平成22年10月19日（1時間）	2	「内服薬処方せんの記載方法の在り方について」	平成23年 2月 8日（1時間）
	研修内容（テーマ・講師）	研修期間								
1	「医薬品の安全使用について」 「血液ガス採取の注意点と検査情報」	平成22年10月19日（1時間）								
2	「内服薬処方せんの記載方法の在り方について」	平成23年 2月 8日（1時間）								
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況										
・ 手順書の作成 （有・無） ・ 業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none">(1) 医薬品保管証には必要最小限の薬剤である。(2) 医薬品保管証の薬品以外に余剰の薬品はない。(3) 麻薬、覚せい剤原料、第1種・第2種向精神薬は施錠できる場所で区別して保管している。(4) 医薬品の保管場所にきちんと表示がある。(5) 冷所保存の医薬品が整理整頓されている。(6) 緊急の場合以外は、口頭指示だけでなく、指示簿や処方せんで指示を受けいている。(7) 内服薬の準備の時には、薬剤を二人でチェックしている。(8) 注射薬調整では、2度以上の薬剤確認を行っている。(9) 点滴投与を開始した後は、点滴ルートから液漏れがないかの確認や、全身状態の確認をしている。(10) 新鮮凍結血漿は常に37℃で溶解し、3時間以内に使用している。										
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況										
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>医薬品に係る添付文書等の収集方法として、厚生労働省医薬食品局監修 Drug Safety Update 医薬品安全対策情報（DSU）による変更点の収集およびメーカーへの変更後の添付文書の送付を依頼後の添付文書の送付を依頼している。</p> <p>また、得られた情報のうち必要なものについて医薬品を取り扱う職員に対して、小冊子「薬局からのお知らせ」を月に1回発行し、各病棟、各診療科へ配布。その中にDSUも含めている。その他にも、緊急に通知する必要がある場合は、随時、各病棟、各診療科へ配布している。</p>										

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 4 4 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>人工心肺装置および補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用エネルギー放射線治療装置、診療用放射線照射装置の安全使用のための研修を行っている。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>(医療機器関係) 点検は、機器の性質や性能などにより細部の点検項目が異なるもの大きく分類すると、外観・機能・性能・電気的安全性点検等から構成され、これらの項目を基に製造業者の取扱説明書及び添付文書に記載されている事項を参考にし、機器毎に保守点検表を作成し点検を行っている。</p> <p>(放射線関係) 製造業者の点検説明書及び添付文書に基づき、電気的安全点検、機械的安全点検、予防的 point 点検等、保守点検表を作成し行っている。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>【収集方法を具体的に記入】</p> <p>(医療機器関係)</p> <ul style="list-style-type: none">平成22年度に開催された学会・研究会および研修会等に参加し、医療機器の安全使用のための情報収集等を行っている。(1) 第3回全国国立大学法人病院臨床工学技士協議会参加 (平成22年7月、東京大学)(2) 第85回医療機器学会大会参加 (平成22年5月、福岡) <p>・ 各製造業者より安全情報が提供される。</p> <p>・ 医薬品医療機器等安全性情報 (厚生労働省ホームページ) 及び医療機器関連情報 (医薬品医療機器総合機構ホームページ) より情報収集を行っている。</p> <p>(放射線関係)</p> <ul style="list-style-type: none">各製造業者より安全情報が提供される。医薬品医療機器等安全性情報 (厚生労働省ホームページ) 及び医療機器関連情報 (医薬品医療機器総合機構ホームページ) より情報収集を行っている。平成22年度に開催された学会・研究会および研修会等に参加し、医療機器の安全使用のための情報収集等を行っている。	

- (1) 第66回日本放射線技術学会（平成22年4月 横浜）
- (2) 第26回放射線技師総合学術大会（平成22年7月 東京）
- (3) 第15回放射線治療セミナー（平成22年7月 佐賀）
- (4) 平成22年度九州地域放射線技師研修会（平成22年9月 熊本）
- (5) 第28回筑後放射線治療懇話会（平成22年9月 久留米）
- (6) 第48回放射線治療研究会（平成22年11月 福岡）
- (7) 第5回九州放射線医療技術学術大会（平成22年11月 熊本）
- (8) 平成22年度放射線安全管理講習会（平成22年11月 福岡）
- (9) 第32回放射線治療セミナー（平成22年12月 名古屋）
- (10) 平成22年度放射線治療品質管理士認定講習会（平成23年1月 東京）
- (11) 第28回筑後放射線治療懇話会（平成23年1月 久留米）
- (12) 第9回放射線治療システム研究会（平成23年1月 福岡）
- (13) シーメンスユーザーズミーティング（平成23年2月 福岡）

【提供・周知方法を具体的に記入】

（医療機器関係）

- ・ 製造業者より提供された安全情報を機器に携わる者に閲覧させ、保存ファイルしている。
- ・ 院内の各部門へはWebを利用した院内マニュアル統合管理システムでの医療機器の取扱説明書及び添付文書が閲覧及び印刷できる環境を構築している。

（放射線関係）

- ・ 製造業者より提供された情報文書を機器に携わる者へ閲覧させ、保存ファイルしている。
- ・ 放射線部情報システム（RIS）を使用し、装置マニュアル及び安全管理マニュアルの閲覧ができる。

佐賀大学医学部附属病院における医療に係る安全管理のための指針

〔平成16年4月1日
制 定〕

第1 本院における医療安全管理に関する基本的考え方

事故のない安全な医療を提供していくためには、医療従事者一人一人が危機意識を持って、日々の患者の診療に当たると同時に、医療に係る知識や技術を一定のレベル以上に保つことが不可欠である。

しかし、大学病院のように巨大で複雑なシステムの下で行なわれている医療においては、経験豊富な医療従事者であっても、うっかりミスや医療事故を起こすことがある。また些細なミスがいくつも重なり合うような、あるいはシステムに原因するような複合要因によって重大な事故が引き起こされる危険がある。

このため医療においても「人間はエラーを起こす」という前提に基づき、エラーを誘発しない環境や起こったエラーを吸収して事故を未然に防ぐ体制を構築していく。

第2 医療安全管理委員会その他本院内の組織に関する基本的事項

本院における医療安全管理に関する基本的な考え方を踏まえて、病院長は、医療に係る安全管理のための体制を確保するため、次の委員会等を設置する。

(医療安全管理委員会)

本院内の安全管理の体制の確保及び推進のために設けるもので、医療安全対策に関する重要事項等について審議し、方針を決定する機関である。

なお、同委員会は、院内感染対策委員会や医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者などの他の関連組織と連携を取り、効率的かつ効果的な医療安全対策を講じるものとする。

(医療安全管理室)

医療安全管理委員会で決定された方針に基づき、組織横断的に本院内の安全管理を担う部門である。

(医療安全管理者)

医療安全管理室に所属し、同室の業務に関する企画立案及び評価、並びに職員の安全管理に関する意識の向上や指導等の業務を行うなど病院全体の安全管理を担当する者である。

(セイフティマネジャー)

所属する部署のインシデント・アクシデント情報を把握し、医療安全管理者への報告及び連絡調整を行う。また、当該安全対策の決定方針に基づく改善策等について所属職員に周知徹底を図るとともに、それらが確実に実施され、かつ安全対策として有効に機能しているか常に点検・評価するなど各部署単位での安全対

策を推進する者である。

(セイフティマネジャー連絡会議)

セイフティマネジャー及び医療安全管理室の正副室長で構成され、本院でのインシデント事例等及び安全対策の決定方針に基づく改善策などの情報を共有し、セイフティマネジャーに周知徹底を図る部会である。

第3 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針

- ・ 病院長は、個々の職員の安全管理に対する意識の啓発、安全に業務を遂行するための技能、チーム医療の一員としての意識の向上を図るため、病院全体に共通する医療安全管理に関する内容についての研修を年2回以上定期的に開催する。
- ・ 病院長は、新規採用職員及び医員（研修医）に対し本院の安全管理に対する基本的な考え方、方針、事項を周知させるとともに、その遵守を徹底させる。

第4 本院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針

- ・ 本院内で発生したインシデント等の報告は、まず、全職員を対象とした「インシデント・アクシデント速報システム（Web ページ）」を利用して行い、基本的に医療事故につながる可能性のある事例等を早期に広く収集し、これらインシデント事例等を活用した医療に係る安全の確保を図るものとする。
- ・ このために、医療安全管理室は、医療安全管理委員会への報告等、予め定められた報告体制に従い事例を収集、分析することにより安全管理に関する問題点を把握して、病院組織としての改善策の企画立案やその実施状況を評価するものとし、これら必要な情報を関係各部署へフィードバックしていく。
- ・ なお、インシデント事例等に対し主体的・積極的な報告は、各医療従事者がお互いに「事例に学ぶ」という姿勢を堅持するという認識と職場環境のもとで行われ、また、原因分析に際しては、「誰が」ではなく、「何が」「何故」起きたかに視点を置くものとする。

第5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針

- ・ 医療事故等が医療側の過失によるか否かを問わず、患者に望ましくない事象が発生した場合は、本院内の総力を結集して、患者の救命と被害の拡大防止に全力を尽くす。
- ・ 事故発生後、可及的速やかに、事故の状況、現在実施している処置、予後等について患者本人、家族等に誠意をもって説明をする。
- ・ 重大な事故の発生時には、速やかに病院長へ報告する。
- ・ 事故の場合にあつての報告は、診療録等に基づき作成する。

- ・ その他医療事故等発生時の対応については、本院「医療安全管理マニュアル」の「医療事故等発生時における対応指針」に沿って対応する。

第6 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当指針の閲覧に関する基本方針を含む。）

本指針（本院ホームページ掲載）の内容を含め、医療従事者は患者との情報の共有に努めるとともに、患者及びその家族等から閲覧の求めがあった場合には、これに応じるものとする。

第7 患者からの相談への対応に関する基本方針

- ・ 医療行為等に関する患者等からの相談に対しては、担当者及びその責任者などを決め、誠実に対応するとともに相談により患者等が不利益を受けないよう適切な配慮を講じる。
- ・ これら相談は、速やかに病院長等へ報告し、また、本院の安全対策等の見直しに活用していくものとする。

第8 その他医療安全の推進のために必要な基本方針

医療安全の推進のために、「医療安全管理マニュアル」を作成し、病院職員へ周知するとともに、その内容は講じた対策の効果や現場からの要請等に応じて、また第三者機関の評価、患者の参加等を通じて常に改訂・改善を図っていくものとする。

附 則

この指針は、平成14年12月19日から施行する。

附 則（平成15年10月1日改正）

この指針は、平成15年10月1日から施行する。

附 則（平成16年4月1日改正）

この指針は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成19年6月25日改正）

この指針は、平成19年6月25日から施行する。

附 則（平成20年3月21日改正）

この指針は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成21年6月1日改正）

この指針は、平成21年6月1日から施行する。

佐賀大学医学部附属病院医療安全管理委員会規程

〔平成16年4月1日
制 定〕

（設置）

第1条 佐賀大学医学部附属病院における医療に係る安全管理の体制の確保及び推進のため、佐賀大学医学部附属病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 医療事故に係る情報の収集及び提供に関すること。
- (2) 発生した医療事故の原因分析及び改善策等に関すること。
- (3) 医療事故防止のための教育・研修に関すること。
- (4) その他医療安全管理に関し必要な事項

（組織）

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 病院長
 - (2) 医療安全管理室長
 - (3) 医療安全管理室副室長（医療安全管理者）
 - (4) 診療科の科長のうち若干人
 - (5) 中央診療施設等の部長等のうち薬剤部長（医薬品安全管理責任者）及びMEセンター長（医療機器安全管理責任者）を含む若干人
 - (6) 看護部長
 - (7) 事務部長
 - (8) その他必要の都度病院長が指名した者
- 2 前項第4号及び第5号に掲げる委員は、病院長が指名する。
- 3 第1項第4号及び第5号に掲げる委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された委員の任期は、前任者の残余の期間とする。

（委員長）

第4条 委員会に委員長を置き、病院長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に支障があるときは、あらかじめ委員長の指名した委員がその職務を代行する。

（議事）

第5条 委員会は、原則として毎月1回開催するものとする。ただし、委員長が必要と認めたときは、臨時に開催することができる。

2 委員会は、委員の過半数以上の出席をもって開き、その議決は、出席委員の過半数の同意による。

(代理出席)

第6条 第3条の委員がやむを得ない理由により委員会に出席できない場合は、あらかじめ委員長の了解を得た者を代理に出席させることができる。

2 前項の者は、第3条の委員とみなす。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴取することができる。

(他の委員会との連携)

第8条 委員会は、院内感染対策の推進に関することについては「佐賀大学医学部附属病院院内感染対策委員会」において審議・策定させる分業体制をとる。但し、同委員会における重要な検討内容については、病院長へ報告することとする。

(事務)

第9条 委員会における資料及び議事録の作成並びに保存、その他庶務に関することは医療安全管理室において行う。

2 その他委員会に関する事務は、患者サービス課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 (平成17年10月27日改正)

この規程は、平成17年10月27日から施行する。

附 則 (平成19年9月6日改正)

この規程は、平成19年9月6日から施行する。

附 則 (平成20年3月21日改正)

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

医療安全管理委員会

* は併任を示す

	23年度	備考
委員長	宮崎 耕 治	
病院長	後藤 昌 昭	
医療安全管理室長	朽方 規 喜	
医療安全管理室副室長	毎熊 恵 子	
各診療科の科長のうち若干人	魚住 二 郎	24年3月まで(病院長指名、任期2年)
	藤本 一 真	24年3月まで(病院長指名、任期2年)
	阪本 雄 一 郎	24年3月まで(病院長指名、任期2年)
中央診療施設等の部長のうち薬剤師部長(医薬品安全管理責任者)及びMEセクター長(医療機器安全管理者)を含む若干人	藤 戸 博	
	後藤 昌 昭 *	
	森 田 茂 樹	24年3月まで(病院長指名、任期2年)
	工 藤 祥	24年3月まで(病院長指名、任期2年)
	木 村 晋 也	24年3月まで(病院長指名、任期2年)
看護部長	長谷川 正 志	
事務部長	阿 部 文 生	
その他必要の都度病院長が指名した者	—	
	13名	

再任を妨げない

佐賀大学医学部附属病院における医療に係る院内感染対策のための指針

(平成 19 年 6 月 19 日制定)

第 1 本院における院内感染対策に関する基本的考え方

院内感染は患者が多なる不利益を被るのみでなく、人的・経済的に医療財源を圧迫し、結果として医療の質そのものを著しく低下させる。このため、院内感染を未然に防ぐ手段を恒常的に院内で周知・遵守すると同時に、診療科横断的に発生する感染症に専門的診療を行うことが不可欠である。加えて、医療スタッフの職業感染曝露を防止することが必要である。

これらの目的のために、当院では専任スタッフで構成される感染制御部を感染対策の中核的機能として常置する。ここでは病原菌の院内疫学的解析に基づく医療関連感染の制御と防止に努める一方、専門医による感染症診療を全診療科に提供することにより、感染対策と感染症診療が常に相補的に機能する体制の維持・向上を可能とする院内感染対策を構築する。

第 2 院内感染対策のための委員会その他本院内の組織に関する基本的事項

(院内感染対策委員会)

- ・院内感染対策委員会は、本院における院内感染対策に関して必要なことを審議する。

(感染制御部)

- ・院内感染対策委員会で決定された方針に基づき、組織横断的に本院内の感染対策を担う部門である。

(感染対策専任看護師長)

- ・感染制御部門の業務に関する企画立案および評価、病院内における職員の院内感染対策に関する意識の向上や指導の業務を行う者である。

第 3 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針

(院内研修)

- ・病院長（管理者）は、個々の職員の院内感染対策に対する意識の啓発、安全に業務を遂行するための技能、チーム医療の一員としての意識の向上を図るため、病院全体に共通する院内感染防止に関する内容についての研修を年 2 回以上定期的に開催する。
- ・病院長は、新規採用職員及び医員（研修医）に対し本院の院内感染対策に対する基本的な考え方、方針、事項を周知させるとともに、その遵守を徹底させる。

第4 感染症の発生状況の報告に対する基本的対応方針

- ・届出が必要な感染症が発生した場合は、感染制御部の指導・援助の下、主治医名で速やかに報告する。
- ・抗菌薬耐性菌を含む病原菌の分離状況については微生物検査室から感染制御部に定期的に報告を受け、サーベイランスを実施し、アウトブレイクに対応する。

第5 院内感染発生時の対応に関する基本方針

院内感染が発生した場合の対応は原則として次に定めるところによる。

- (1) 院内感染発生現場の医療従事者、あるいは微生物検査室からの報告に基づき、感染制御部スタッフが感染症発生状況の解析を迅速に行い、考えられる感染症の制御に必要な一次措置を直ちに講じる。
- (2) 前号の措置後、感染制御部長または副部長は、当該感染症の発生について病院長、診療科長、看護部長および事務部長にただちに報告する。
- (3) 病院長等は院内感染が発生した場合には、必要に応じて緊急の感染制御部会議を招集し、本院の院内感染に係る原因調査、分析、再発防止策を検討させる。
- (4) その他院内感染が発生した場合の対応の詳細については別に定める。

第6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針

本指針の内容を含め、職員は患者との情報の共有（本院ホームページ掲載）に努めるとともに、患者及びその家族等から閲覧の求めがあった場合には、これに応じる。

第7 その他の本院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針

院内感染対策の推進のために「院内感染対策マニュアル」を作成し、病院職員へ周知するとともに、その内容は講じた対策の効果や現場からの要請に応じて、また、第三者機関の評価などを通じて常に改定・改善を図ってゆくものとする。

附 則

この指針は、平成19年6月19日から施行する。

佐賀大学医学部附属病院院内感染対策委員会規程

〔平成16年9月24日
制 定〕

(設置)

第1条 佐賀大学医学部附属病院における院内感染の予防及び対策のため、佐賀大学医学部附属病院院内感染対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 院内感染の予防に関すること。
- (2) 院内感染予防に係る情報の収集に関すること。
- (3) 院内感染源及び感染経路の調査に関すること。
- (4) 院内感染予防対策の確立に関すること。
- (5) 感染制御部の運営に関すること。
- (6) その他感染予防及び対策に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 病院長
 - (2) 感染制御部長
 - (3) 感染制御部副部長
 - (4) 検査部、手術部、材料部及び輸血部の各部長
 - (5) 薬剤部長
 - (6) 看護部長
 - (7) 栄養管理委員会委員長
 - (8) 歯科口腔外科の科長
 - (9) 診療科長又は副診療科長のうち若干人
 - (10) 事務部長
 - (11) その他病院長が指名する者若干人
- 2 前項第9号及び第11号に掲げる委員は、病院企画室会議の議を経て、病院長が委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第9号及び第11号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残余の期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、感染制御部長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に支障があるときは、あらかじめ委員長が指名した者がその職務を代行

する。

(定足数)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開くことができない。

(代理出席)

第7条 第3条の委員がやむを得ない理由により委員会に出席できない場合は、あらかじめ委員長の了解を得た者を代理に出席させることができる。

2 前項の者は、第3条の委員とみなす。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員長は、必要があると認めたときは、委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、経営管理課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成16年9月24日から施行する。

2 この規程の施行後最初に委嘱される第3条第1項第9号及び第11号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成18年3月31日までとする。

附 則 (平成17年4月14日改正)

この規程は、平成17年4月14日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則 (平成19年3月22日改正)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年9月6日改正)

この規程は、平成19年9月6日から施行する。

院内感染対策委員会

* は併任を示す

	22年度	23年度	備考
委員長 感染制御部長	青木洋介	青木洋介	感染対策担当看護師長
病院長	宮崎耕治	宮崎耕治	
感染制御部副部長	福岡麻美	—	
感染制御部副部長	三原由起子	金子ゆかり	
検査部長	末岡榮三朗	末岡榮三朗	
手術部長	森田茂樹	森田茂樹	
材料部長	後藤昌昭	後藤昌昭	
輸血部長	木村晋也	末岡榮三朗*	
薬剤部長	藤戸博	藤戸博	
看護部長	長谷川正志	長谷川正志	
栄養管理委員会委員長	岩坂剛	後藤昌昭*	
歯科口腔外科の科長	後藤昌昭*	後藤昌昭*	
診療科長または副科長のうち若干人	魚住二郎	魚住二郎	
	林真一郎	林真一郎	24年3月まで
	松島俊夫	松島俊夫	24年3月まで
	長澤浩平	坂口嘉郎	24年3月まで
	木村晋也*	木村晋也	24年3月まで
事務部長	阿部文生	阿部文生	24年3月まで
病院長の指名する者若干人	宮本比呂志	宮本比呂志	
	17名	15名	

